

New

ハンズオンセミナー 3

胸・腰椎後方除圧術後のチタンプレートを用いた脊柱管アーチ構造再建

腰椎椎弓形成術用インプラントの初のハンズオンセッションを開催します

9月20日(土)

ハンズオンセミナー会場
6F展示場605

13:00～14:30

座長

山崎 昭義 先生

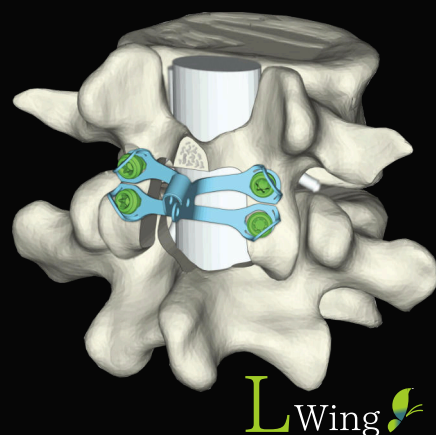
社会医療法人仁愛会
新潟中央病院 整形外科

演者

宮本 敬 先生

岐阜市民病院整形外科

チタン製スペーサーを用いた
脊椎後方要素のアーチ構造再建
- そのコツとピットフォール -



演者

谷 諭 先生

東京脊椎・関節クリニック羽田

腰椎も椎弓切除から椎弓形成へ(続編)
-LaminaCap による腰椎椎弓形成術-



承認番号:30600BZX00208000
販売名:ロミナキャップ システム

承認番号:30300BZX00218000
販売名:Wingプレートシステム

Inspired, Developed, and Manufactured - in Japan

共催:第32回一般社団法人日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会、株式会社アムテック

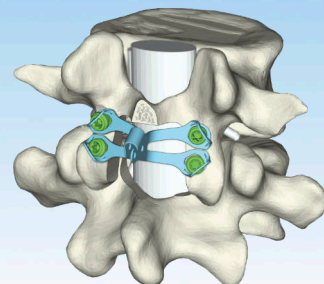
チタン製スペーサーを用いた脊椎後方要素のアーチ構造再建 - そのコツとピットフォール -

宮本 敬 先生

岐阜市民病院整形外科

Key words : lamina spacer、posterior decompression、arch structure

脊椎の後方除圧術により脊椎後方要素のアーチ構造が破綻する状態ともなり得る。最近のバイオメカニクス研究において、アーチ構造の破綻が後方要素へのストレスを増加させると示唆されている。よって、脊椎後方要素のアーチ構造の温存、あるいは再建が望まれている。2024年度よりアムテック社のL-Wing（腰椎用椎弓スペーサー）を症例に応じて使用している。アーチ構造の再建、硬膜外癒着の増生の予防、等に有用である可能性があり、棘突起縦割式椎弓形成において、棘突起を含めたアーチ構造の再建も可能である症例もある。また、胸椎部のアーチ構造再建目的に胸椎の解剖学的形態を考慮に入れたT-wingも開発されている。胸椎の場合、生理的後弯を有する部位であり、アーチ再建により、脊髄の保護機能も果たせる可能性がある。本ハンズオンセッションでは主にL-Wing, T-Wingの初期使用経験について、手技上の注意点等も含めて、話をさせていただく。



腰椎も椎弓切除から椎弓形成へ（続編） -LaminaCap による腰椎椎弓形成術-

谷 諭 先生¹、水野 順一 先生²

1 東京脊椎・関節クリニック羽田、2 新百合ヶ丘総合病院

Key words : 腰椎椎弓形成術、腰椎椎弓切除、腰部脊柱管狭窄症

【目的】本邦では頸椎椎弓切除を否定し椎弓形成術が行われてきたが、腰椎で依然椎弓切除が行われてきたことに疑問を感じ、椎弓形成術を可能にする世界初のチタン製インプラントL-WingとLaminaCap（図）の開発をアムテック社と行なった。

【方法】LaminaCapはスペーサー中央をバスケット形状とし、骨・人工骨を充填することにより椎弓と骨性癒合を期待した。

【結果】設置は容易に行えた。術後観察期間が短いが術後6ヶ月で椎弓の骨性再建が認められる症例も確認されている。L-Wing に比べ金属量が若干増えたが、術後画像診断への影響は少なかった。

【考察】椎弓切除後は椎間関節や下関節突起へのストレスが多いことがバイオメカニクスの研究で指摘され、椎弓切除では長期的に腰椎関節症的变化が進む可能性が見て取れる。したがって椎弓をできるだけ再建することでこの問題点を最小化することが可能と考える。

【結論】L-Wing とLaminaCapは腰椎椎弓切除術後の腰椎の力学的問題点を減少する可能性がある。

